



海の京都



森の京都



お茶の京都



竹の里・乙訓

京都府の観光を通じた地域振興施策



令和2年1月

京都府観光の現状・課題

- 府内の観光入込客数及び観光消費額は京都市に集中
- 観光客の府全体への分散・周遊を促し、京都府全体で観光客の満足度を高めるとともに、地域社会と観光とが共生できる社会づくりを推進することが必要

平成30年観光入込客数・観光消費額

地域	観光入込客数(万人)	観光消費額(億円)
京都市	5,275 (62.0%)	130,823 (95.5%)
京都市以外	3,230 (38.0%)	6,191 (4.5%)
合計	8,505 (100%)	137,014 (100%)

平成30年外国人宿泊客数(人)

京都市	4,503,369 (98.0%)
京都市以外	91,493 (2.0%)
合計	4,594,862 (100%)

- 京都市を除く府域の観光入込客数は府全体の38%
- 京都市を除く府域の観光消費額は府全体の5%

- 外国人観光客の約98%は京都市内に宿泊、府域の外国人宿泊客数は府全体の2%

京都市の一部に集中する観光客

- ・ 京都市内の旅館・ホテル等の客室数は、満たされつつある状況
- ・ 外国人観光客の急増等に伴い、一部の観光地や市バスの混雑、マナー問題等が発生

京都府観光総合戦略の推進

- 知事を本部長とする観光戦略総合推進本部を設置（平成30年6月）
- 新しい時代の京都府観光のあり方を総合的に検討した京都府観光総合戦略を策定（平成31年3月）し、「観光」を幅広い産業の土台となる総合政策としてとらえ、府庁横断的に取組を推進

課題認識

- 府域全体へ観光客が環流する仕組み
- 欧米豪からの誘客
- 地域観光マネジメント力や発信力
- 総合的マーケティングの専門的知見や体制
- 観光から産業全体への波及
- 観光に関するデータの蓄積

方向性

- 京都市内の一部に集中する観光客を「もうひとつの京都」へ
→マーケティング、営業専門人材の配置、「もうひとつの京都」関連商品の統一的PR・販売 等
- 消費額の大きな欧米豪等インバウンド誘客促進強化
→多言語対応、現地プロモーション、ファムトリップやインセンティブツアー等の誘致体制の強化 等
- 情報収集と分析・活用
→デジタルサイネージなどIoTの観光活用による情報分析と府内誘導 等
- 観光を起点とした幅広い産業の活性化と地域振興
→MICEによる新ビジネス創造や技術革新、農林水産業や伝統工芸、商店街等への経済波及効果

「もうひとつの京都」のきっかけ

地域創生（「明日の京都」）

個々の力の連携が「京都」を元気にする



「新しい京都づくり」のキーワード=『共生』

【従来の観光地域づくりの課題】

- 観光関係者だけのPRに限界
- 地域単位での取組が多い
- 地域の魅力を十分にPRできていない

地域の新しいあり方『もうひとつの京都』

地域の共生

それぞれがバラバラに取り組むのではなく、統一テーマのもと、地域の多様な主体がコラボレーション

北部



海の京都

中部



森の京都

南部



お茶の京都

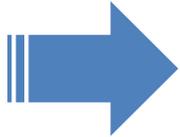
乙訓



竹の里・乙訓

「もうひとつの京都」事業の基本的な考え方

○「海」「森」「お茶」「竹」という地域を代表する統一テーマのもと、「京都」のブランド力を活かして、地域自らが地域の魅力を再発見し、自らの手で磨きをかけることで…



- ①地域の方々自身が、その地域を誇りに思い、大切にしたいくなる地域づくり
- ②地域主導の持続可能な地域づくり
- ③交流人口拡大による雇用創出
- ④若者をはじめとする人口定着

行動原則

- 1 「民主導」の徹底
- 2 「デザイン」の重視
- 3 「集中とネットワーク」戦略の展開
- 4 「オンリーワン・高品質・ほんもの」の追究



行政(京都府市町村)

- 頑張る地域・人を徹底的に応援
- 観光・産業振興、インフラ整備などの施策を総合的に展開

『もうひとつの京都』の経過

平成23年1月

府政運営の指針「明日の京都」策定

平成25年3月

「海の京都構想」策定

平成27年4月

「明日の京都」改定

「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」の推進

平成27年6月

「森の京都構想」、「お茶の京都構想」策定

ターゲットイヤー

㊶海の京都 ㊷森の京都 ㊸お茶の京都

平成28年度

海の京都、森の京都、お茶の京都DMOの設立

令和元年10月

「京都府総合計画」策定 府民と共に「京都夢実現プラン」

『もうひとつの京都』の展開

京都府「海・森・
お茶の京都」構想

各市町村
マスタープラン

戦略的交流拠点の整備

観光地域づくり
地域経済の活性化

広域プロモーションの展開
〈海・森・お茶の京都博〉

DMOの設立・運営

「もうひとつの京都」の取組

京都府全体への観光誘客のために、**知名度の高い「京都」**を活用した**地域のブランディングと情報発信**を推進



海の京都



森の京都



お茶の京都



海・森・お茶の京都DMOと周遊観光の取組

- 民間の力を活用し、地域の関係者と連携して「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」それぞれの地域の魅力を活かした旅行商品の造成等の取組を実施
- 京都市との連携により、府域全体での広域周遊観光をさらに推進

○海・森・お茶の京都DMOにおける旅行商品造成の取組例

<海の京都>

- ▶ アクティビティ体験の商品化
(SUP・シーカヤック体験、手びねり・ろくろ陶芸体験等)

<森の京都>

- ▶ 伝統工芸体験の商品化
(鍛刀場見学と懐刀製作体験等)

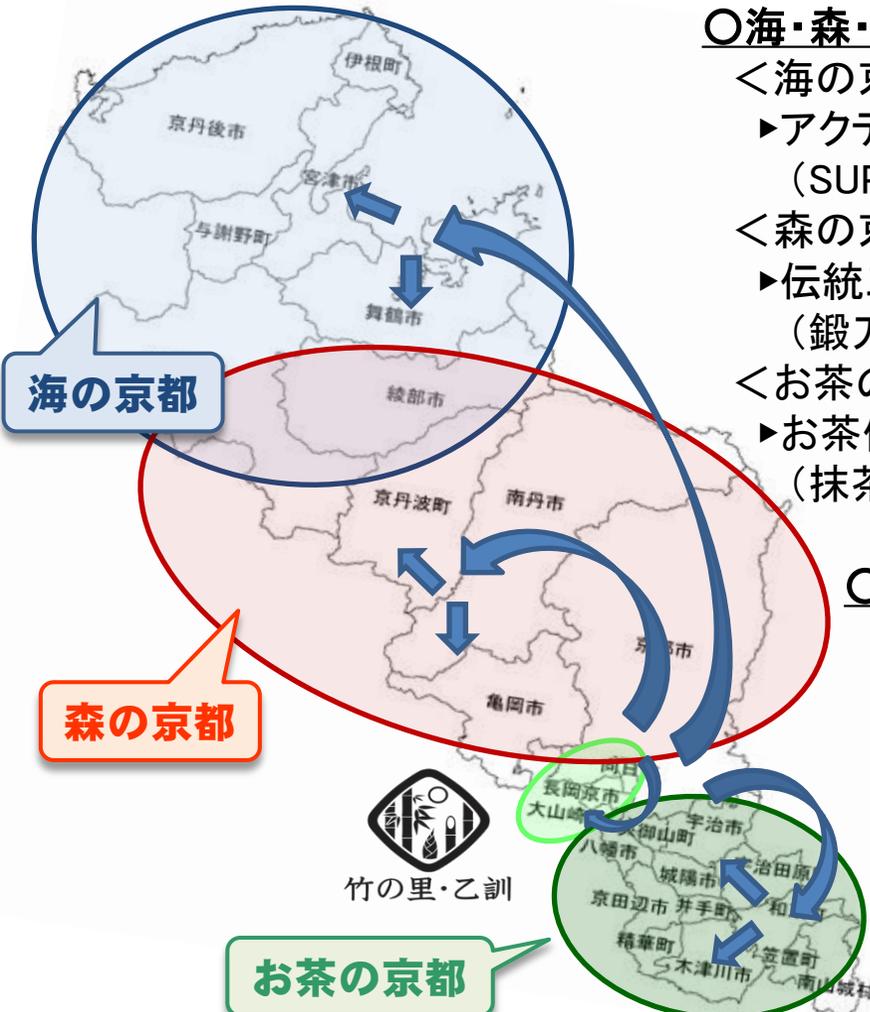
<お茶の京都>

- ▶ お茶体験の商品化
(抹茶体験ツアー等)



○「もうひとつの京都」と京都市の連携

- ▶ 本年8月28日の府市懇談会において、
 - ・海・森・お茶の京都DMOと京都市観光協会の連携
 - ・MICE誘致と、府内の施設を活用した「ユニークベニュー」の実施
 - ・京都舞鶴港へのクルーズ船・観光客誘致への協力など、府域・市域一体の広域観光推進について合意



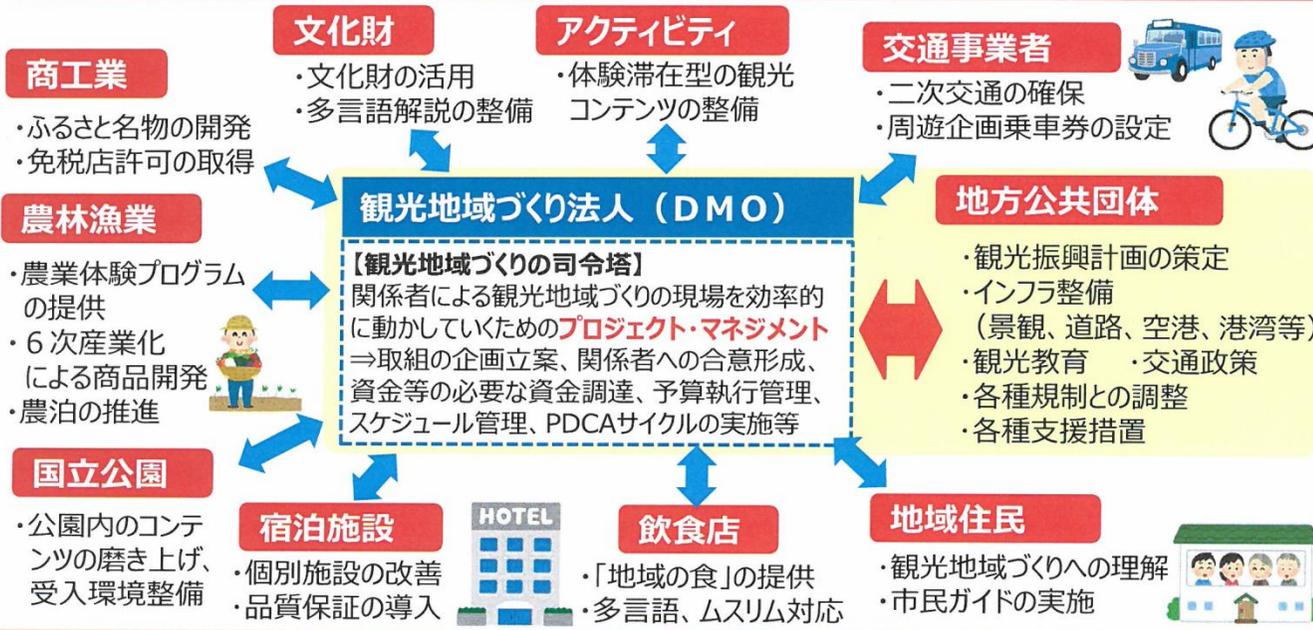
観光地域づくり法人 (DMO)

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人

DMO : Destination Management / Marketing Organization

地域の関係者を巻き込んだ体制の構築

観光地域づくり法人(DMO)を中心とし、地域の関係者が主体的に参画した体制を構築



ターゲティング等の戦略策定

観光コンテンツの造成

受入環境の整備

地方誘客・旅行消費拡大

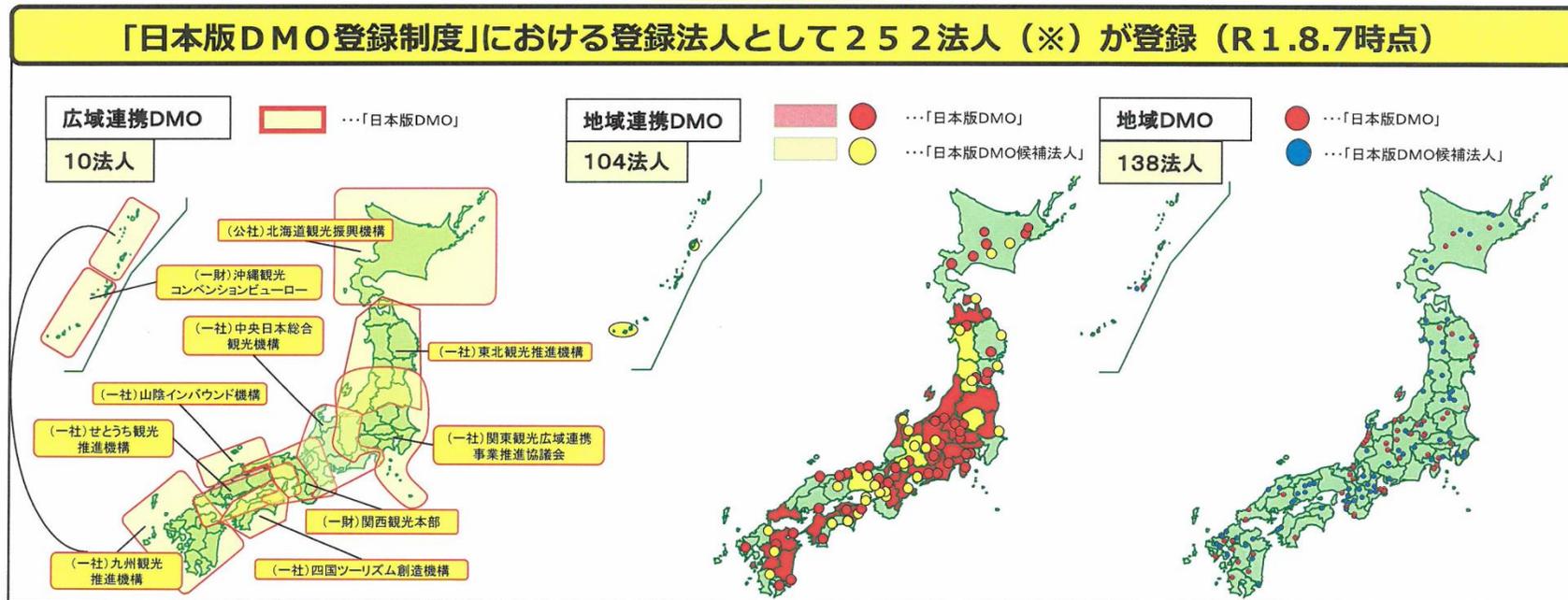
「日本版DMO登録制度」

「日本版DMO」登録の5要件

- (1) 「日本版DMO」を中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成
- (2) データの継続的な収集、戦略の策定、KPIの設定・PDCAサイクルの確立
- (3) 関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーションの実施
- (4) 法人格の取得、責任者の明確化、データ収集・分析等の専門人材の確保
- (5) 安定的な運営資金の確保

すでに該当している = 「日本版DMO」
 今後該当する予定 = 「日本版DMO候補法人」

「日本版DMO登録制度」における登録法人として252法人（※）が登録（R1.8.7時点）

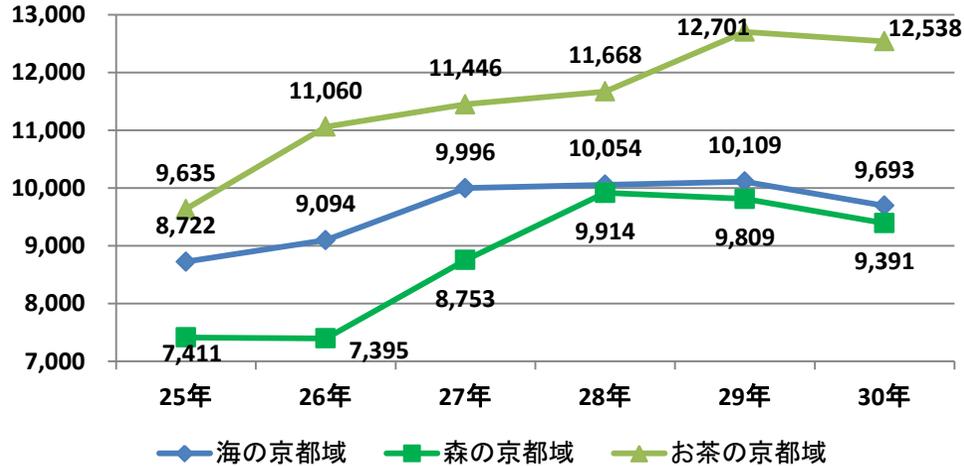


※「日本版DMO」登録数：136法人、「日本版DMO候補法人」登録数：116法人

『海・森・お茶の京都』の取組による成果

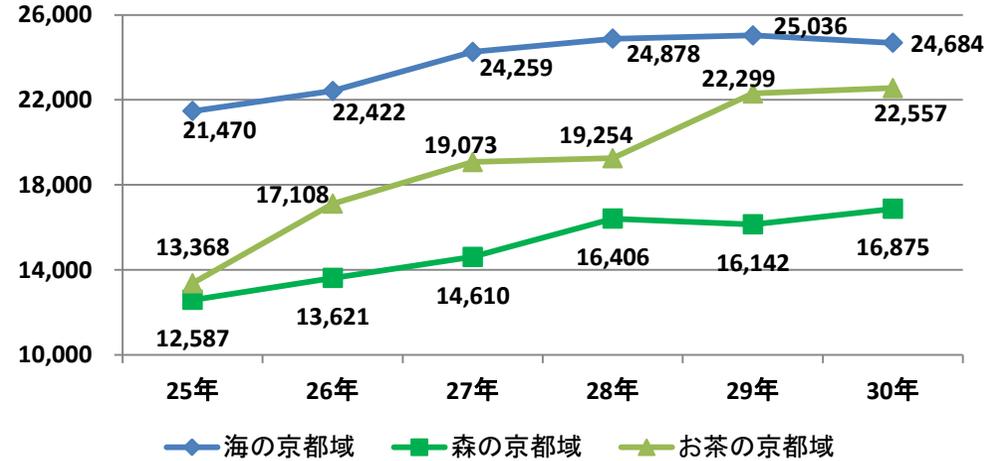
■観光入込客の推移

単位:千人



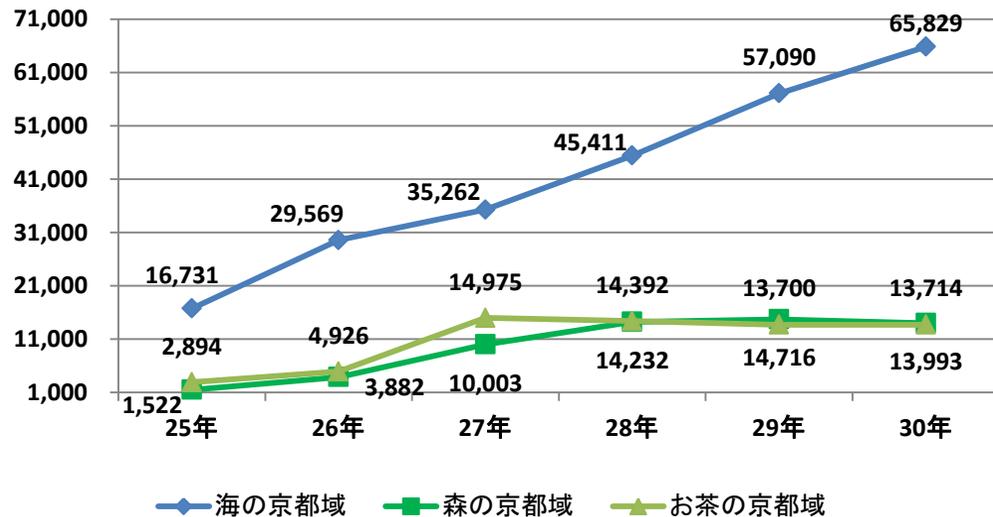
■観光消費額の推移

単位:百万円



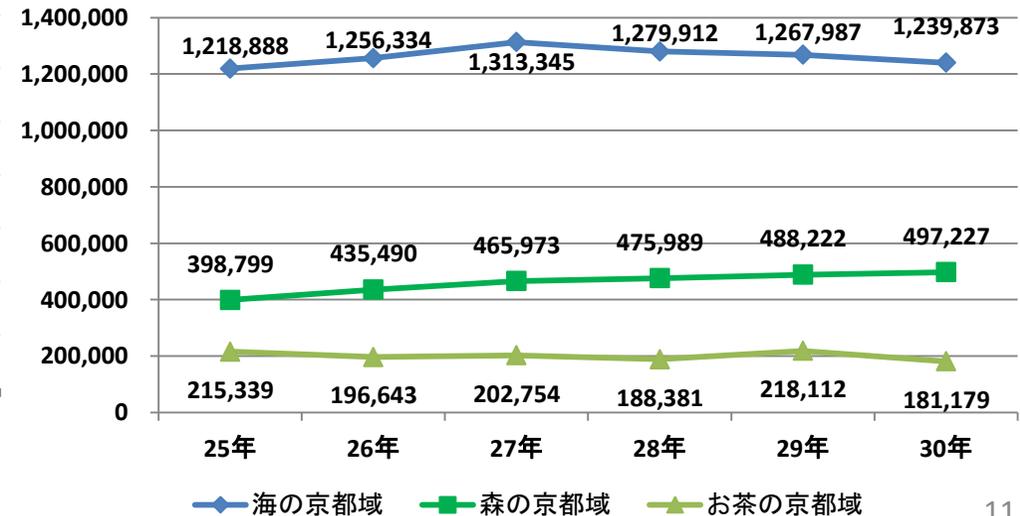
■外国人宿泊客の推移

単位:人



■日本人宿泊客の推移

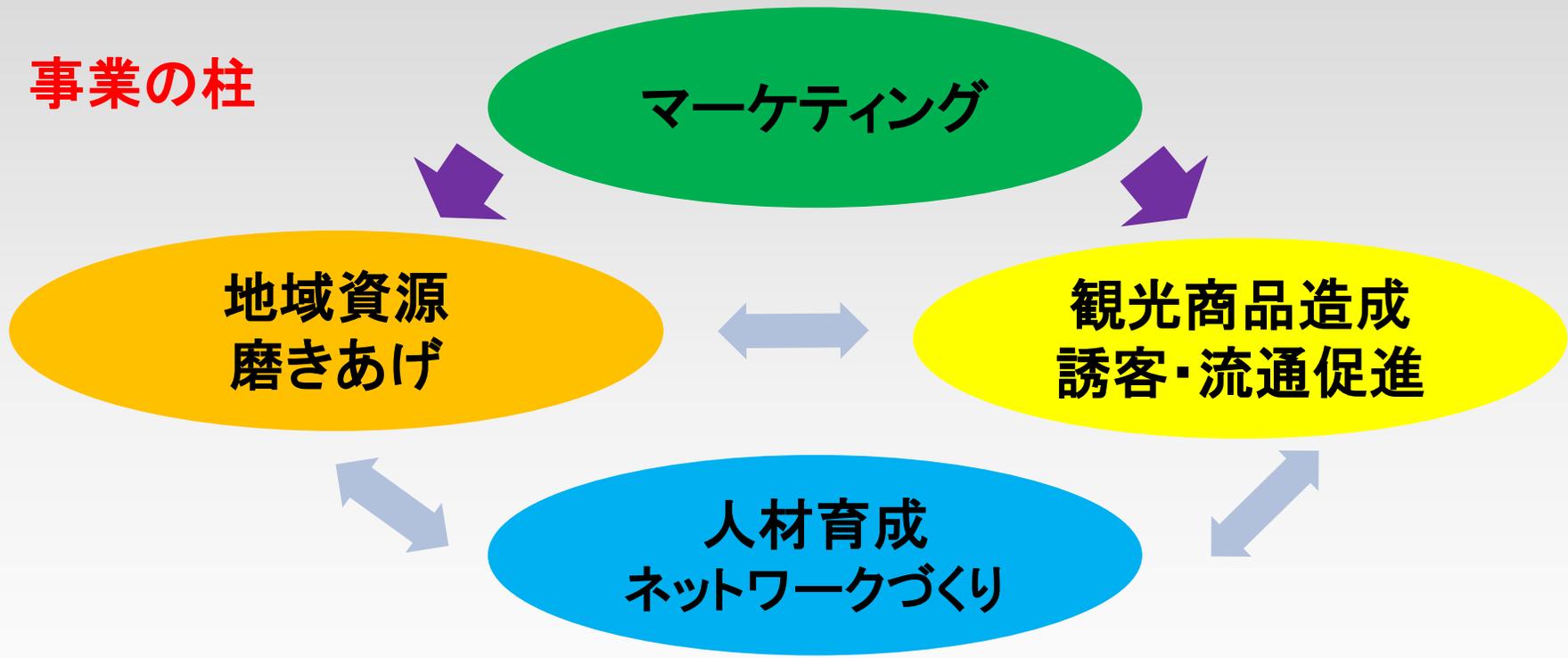
単位:人



海・森・お茶の京都DMOの目的と取組み

- 観光消費額の増加等による地域経済の活性化
- 地域ブランドの確立による定住等の促進と交流人口の拡大

事業の柱



<観光地域づくりを推進>

海・森・お茶の京都DMOによる観光地域づくり

○着地型旅行商品の造成・販売及び人の流れづくり

- ・アクティビティ等体験プランの商品化
- ・ファムツアー実施
- ・クルーズ客向け商品造成

○インバウンドプロモーション及びビジネスチャンス創出

- ・海外商談会への出展
- ・地元受入体制整備

○観光地域づくり・人材育成

- ・観光ガイド、農泊人材の育成
- ・観光地域づくりマネージャー、観光地域づくりパートナーの育成

○マーケティング調査等による施策反映

DMO自身が稼ぐのではなく、地域にお金が回る仕掛けを展開

「海の京都」の主な取組(着地型旅行商品の造成・販売) —信用金庫と連携したツアー実施—

大型団体ツアー誘致及び広域的な観光資源PRを目的に地元金融機関等と連携
例: 京都北都信用金庫と連携し、他府県信金「年金友の会」担当者向けファミツアーを実施

【誘客】平成30年度 5信金: 3,500人 → 令和元年度見込み 11信金: 5,273人
(令和2年1月28日現在)

朝日信用金庫(東京都)の例



◆ご旅行期間: 令和元年10月16日(水)~10月18日(金) (2泊3日)

◆ご旅行代金:	2名1室利用	119,000円	124,000円
大人お一人様	3名1室利用	117,000円	122,000円
(別表を必ずお読みください)	4~5名以上1室利用	115,000円	120,000円

※1泊日/露天風呂付別荘ご利用の場合お一人様追加料金 8,000円

＜ツアー実施による効果＞

海の京都全域

平成30年度: (推計) 地元消費額 2,500万円

※日帰り4千円、宿泊1万5千円で推計

令和2年度は森の京都、お茶の京都エリアに取り組みを拡大予定

◆行程表

- 1日目 東京駅=京都駅=がんこ亀岡楽々荘(昼食)=綾部グンゼスクエア=天橋立(宿泊)
- 2日目 ホテル=伊根の舟屋=丹後王国「食のみやこ」(昼食)=和久傳の森=熊野酒造=豪商稲葉本家=網野夕日ヶ浦温泉(宿泊)
- 3日目 ホテル=丹後の鮮魚屋やまいち=嵐山(昼食)=京都駅=東京駅

「海の京都」の主な取組(着地型旅行商品の造成・販売) —クルーズ客向け商品造成—

京都舞鶴港に寄港のクルーズ船乗客を海の京都へ誘客(オプションルツアー造成)

	平成30年度		令和元年度
【誘客人数】	12回: 1,961人	→	20回: 4,221人
【取扱金額(売上)】	約670万円		約1,780万円

クルーズ船・寄港地ツアー(外国人向け)の例

【ツアー名】 *Kyotango Chirimen Textile Factory*

京都舞鶴港 == 丹後ちりめん工房見学(京丹後市網野町) ==
 元伊勢籠神社 == 天橋立散策(文殊地区/知恩寺/回旋橋/
 松並木散策 == 京都舞鶴港)

料金 \$169.5

【ツアー名】 *Tango Washi Paper Making Experience*

京都舞鶴港 == 丹後和紙の話しと紙すき体験(福知山市大江町) ==
 == 天橋立散策(文殊地区/知恩寺/回旋橋/松並木散策) ==
 ==
 元伊勢籠神社・日本酒レクチャー&テイスティング == 京都舞鶴
 港

料金 \$479.5



丹後ちりめん工房見学(京丹後市網野町)

ちりめん製品を一人で4~5万円購入する方も多数おられました。



丹後和紙 紙すき体験(福知山市大江町)

「森の京都」の主な取組(特産品の開発・商品化) —農福連携—

森の京都エリアで生産された野菜を京丹波町の農業法人とDMOが商品化製造は、社会福祉法人亀岡福社会の作業所で行う「農福連携事業」

これまでに**11種類**を商品化 道の駅やイベント販売で約**110万円**売上げ(1月現在)
観光客へのお土産品として特産品化を目指し、**生産者(農家)、加工事業者(障害のある方)、地元販売事業者**にお金が回る仕掛けづくりを一緒に取り組む



令和元年度販売開始



京野菜ピクルス



道の駅「京丹波 味夢の里」などで販売



大阪や東京でもPR

「森の京都」の主な取組(着地型旅行商品の造成・販売) —教育体験旅行、農・観連携—

地元住民や団体の方々、関係市町、広域振興局と一緒に都市農村交流活動、農村と観光の連携事業を推進

令和元年度教育体験旅行の受入実績(1月末現在)

平成30年度実績 1,175人 → **1,685人(うち、国内1,121人、海外564人)**
海外は、台湾、香港、オーストラリアなどから受入

令和元年度事業開始



福知山市三和町と京丹波町で受け入れた
教育体験旅行(令和元年11月8～9日)
京都学園中学校から生徒37人参加



綾部市山家地区
カヌー・ラフティング体験2回開催
29人参加
乗艇場整備後、観光商品化を目指す

「お茶の京都」の主な取組(着地型旅行商品の造成・販売) —お茶の京都エリアの歴史に着目—

「家康伊賀越えの道」をテーマとした広域周遊ルートの磨き上げのため、
地元ガイド団体と連携し、バス&ウォーキングツアーを実施

- 4月13日(土) 京田辺編 43人参加
- 5月11日(土) 井手編 44人参加
- 5月25日(土) 宇治田原編 38人参加

- 【歴史学者の渡邊先生(佛教大学名誉教授)と行く神君伊賀越え】
- 11月16日(土) 25人参加



「お茶の京都」の主な取組(着地型旅行商品の造成・販売) —文化財修理現場を観光資源として活用—

文化財修理現場を観光資源として活用し、京都市内からお茶の京都への周遊と観光誘客を図るため、バスツアーを実施



◎清水寺修理現場見学と日本茶発祥の地

7月26日、27日 実施 (54名参加)

清水寺～喜撰茶屋(昼食)～西ノ山展望広場、禅定寺、やんたん、永谷宗円生家、茶宗明神社

◎教王護国寺(東寺)修理現場見学と南山城の古寺巡礼

7月26日、27日 実施 (51名参加)

東寺～城陽市八百忠別館(昼食)～城陽酒造～浄瑠璃寺～岩船寺



◎黄檗山萬福寺修理現場見学と茶源郷和東の茶畑探訪

8月2日、3日 実施 (68名参加)

黄檗山萬福寺～和東荘(昼食)～和東茶カフェ～石寺茶畑～海住山寺